

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 授業研究や校内研修等の実施をととしての教員の専門性向上と授業改善の推進	① 授業案検討会、研究授業、授業整理会の持ち方を見直し、改善・工夫し実践することで、個々の教師の授業力の向上と専門性の向上を図る。	研究推進委員会	昨年度は一人一研究授業を実施し、授業力の向上を図ったが、その後の授業改善に十分活かせるまでには至らなかった。授業研究後の教師の満足感も十分ではなく授業研究のあり方を見直す必要がある。	【満足度指標】 授業研究をととして今後の自分の授業に活かせる内容であると感じる。	授業研究が今後の自分の授業に活かせる内容であると A：十分感じた B：おおむね感じた C：あまり感じなかった D：ほとんど感じなかった	C以下の割合が、15%以上あれば授業研究のあり方を再検討する。	9月と1月に職員へのアンケート調査を実施
	② 障害特性の理解や支援・指導方法についての研修会を行い、教員の専門性向上を図る。	教育支援課	これまで校内で児童生徒の障害特性の基本的な理解に関する研修を実施しておらず、一般的な指導法について知らない教員が多い。また、昨年度は教師の専門性に十分満足している保護者の割合が70%であり、個々の教師の専門性向上を図る必要がある。	【努力指標】 障害特性の理解に関する研修会を年3回実施する。	障害特性の理解に関する研修会を A：年4回以上実施 B：年3回実施 C：年2回以下実施 D：実施しなかった	C以下であれば研修会の計画及び方法を再検討する。	
				【満足度指標】 (保護者) 教師の専門性に十分満足している。	教師の専門性に十分満足している保護者の割合が A：85%以上 B：75%以上85%未満 C：65%以上75%未満 D：65%未満	C以下であれば研修会の内容及び方法を再検討する。	9月と1月に保護者へのアンケート調査を実施
2 地域の資源を活用した計画的な教育活動ならびに地域との交流活動の推進	① 地域の高齢者団体「ほのぼの会」と定期的に多様な活動と一緒にを行い、交流する。	小学部	昨年度は「ほのぼの会」との交流を2回行った。「ほのぼの会」の方々の満足度が高く、継続して交流したいという要望をいただいている。	【努力指標】 「ほのぼの会」との交流を年4回実施する。	実施回数は A：5回以上 B：4回 C：3回 D：2回以下	C以下であれば交流計画や内容を再検討する。	
	② 地域の方々とグラウンドゴルフ等をととしての交流を行う。	中・高等部	昨年度は授業でグラウンドゴルフの練習を5回行ったが、地域の方々と交流を行うまでには至らなかった。	【努力指標】 グラウンドゴルフ等をととした交流を年2回実施する。	実施回数は A：3回以上 B：2回 C：1回 D：実施しなかった	C以下であれば交流計画や内容を再検討する。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 キャリア教育の推進と進路指導の充実	① 長期的展望にたち、関係機関と連携して珠洲市、能登町、輪島市での職場実習及び職場開拓を行う。	進路指導課	能登北部地域では就労や職場実習受け入れ企業が少ない。今年度、他校からの中・高等部への新入生が6名おり、個々の生徒の特性に応じた職場実習場所を開拓することが急務となっている。	【成果指標】 新たな職場実習受け入れ企業が増える。	新たに開拓した実習協力企業は A：3社以上 B：2社 C：1社 D：0社	C以下であれば、職場開拓の方法を再検討する。	
	② 児童生徒の実態及び保護者のニーズに応じた中・高親子施設見学や進路研修会の内容を工夫し、進路指導の充実を図る。	進路指導課	毎年、中・高親子施設見学や進路研修会を実施している。今年度、他校からの新入生が中・高等部に6名おり、親子施設見学や進路研修会の内容の充実を図る必要がある。	【満足度指標】 (保護者) 中・高親子施設見学や進路研修会の内容に満足している。	中・高親子施設見学や進路研修会の内容に A：8割以上が満足 B：7割以上8割未満が満足 C：6割以上7割未満が満足 D：6割未満が満足	C以下であれば各行路の内容を再検討する。	各行事の後 に保護者にアンケート調査を実施
	③ 部・学級だよりや連絡帳、保護者懇談等をととして、保護者の協力を得ながら、家庭でお手伝いをする児童生徒の割合を高める。	生徒指導課	学校では毎日清掃指導をしているが、家庭で掃除や洗濯、食器洗い等の簡単な手伝いをしている児童生徒は少ない。昨年度は、家庭でお手伝いをする児童生徒の割合が6割しかなかった。	【成果指標】 家庭でお手伝いをする児童生徒の割合が増える。	家庭でお手伝いをする児童生徒の割合が A：7割以上 B：6割以上7割未満 C：5割以上6割未満 D：5割未満	C以下であれば、児童生徒への指導内容や方法、保護者への協力依頼の方法を再検討する。	9月と1月に保護者へのアンケート調査を実施
4 授業や校務等にICTを活用する能力を高める取り組みの推進	① ワードやエクセルなどのソフトを活用する研修会を実施し、教職員のICT活用能力の向上を図る。	校内情報委員会	昨年度末、教員に一人一台PCが貸与されたが、校務等でワードやエクセルなどのソフトを十分活用できる教員が少ない。	【努力指標】 ワードやエクセルなどのソフトを活用する研修会を年2回実施する。	ソフトを活用する研修会を A：年3回以上実施 B：年2回実施 C：年1回実施 D：実施しなかった	C以下であれば研修会の内容及び方法を再検討する。	
				【成果指標】 ワードやエクセルなどのソフトを校務等に活用できるようになる。	校務等に活用できる教員の割合が A：7割以上 B：6割以上7割未満 C：5割以上6割未満 D：5割未満	C以下であれば指導方法を再考する。	9月と1月に職員へのアンケートを実施